

風水害

5. 大きな被害をもたらす台風や集中豪雨

台風は、7月から10月にかけて日本に接近・上陸するものが多く、強い風とともに広い範囲に長時間にわたって大雨を降らせます。

また、近年、局地的な大雨による浸水被害が多発しています。この大雨をもたらす積乱雲（入道雲）は短時間で急激に発達するため、突発的に大雨が降ります。これは台風などと異なり、予測が非常に困難で、急激な状況の変化により大きな被害を引き起こすことがあります。

風と雨の強さ

風の強さと想定される被害

平均風速(m/秒)	予報用語	想定される被害
10以上～15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる 傘がさせない
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩くことができない 高所での作業は極めて危険
20以上～25未満	非常に強い風	ものにつかまっていけないと立っていられない 車の運転を続けるのは危険な状態となる
25以上～30未満		樹木が倒れ始める 瓦が飛び始める
30以上～	猛烈な風	屋根が飛ばされる 木造住宅が壊れ始める

雨の強さと想定される被害

1時間雨量(mm)	予報用語	想定される被害
10以上～20未満	やや強い雨	ざーざーと降る 雨の音で話し声がよく聞き取れない 長く続くときは注意が必要
20以上～30未満	強い雨	どしゃぶり 傘をさしていてもぬれる 側溝などから水があふれることがある
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る 道路が川のようになる マンホールから水があふれることがある
50以上～80未満	非常に激しい雨	傘はまったく役に立たない 地下街に雨水が流れ込むことがある
80以上～	猛烈な雨	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、 厳重な警戒が必要

【都市型水害の特徴】

大都市ではアスファルトで固められた部分が多く、大量の雨水が一気に下水道へ流れ込み、排水の処理能力を超えマンホールや側溝から地上にあふれ、地下街や地下室を襲う災害も起こっています。地下にいるときは、安全と思いつまず、雨の降り方や降っている時間に気をつけ、外で何が起きているのかを把握するようにしましょう。階段を流れ落ちる水の勢いは強く、地上への避難は困難になりますので、地下への浸水が予想されるときは早めに避難しましょう。

6. 西成区で想定される水害

(1) 河川氾濫

長時間雨が激しく降ると、河川の増水により堤防が壊れたり、堤防から水が溢れ出して浸水します。西成区では大和川が氾濫した場合に浸水が想定されています。

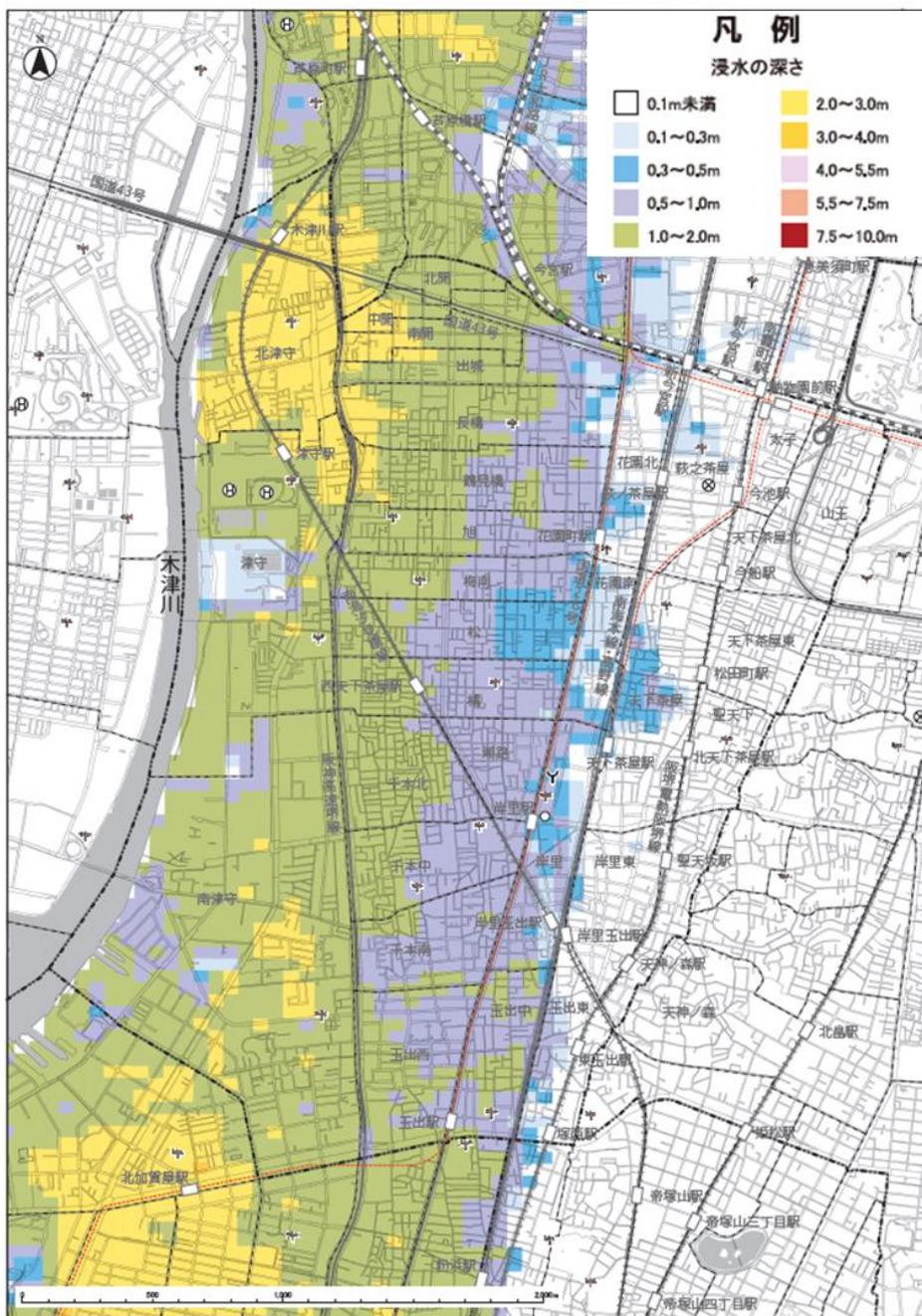
① 淀川が氾濫した場合

国土交通省近畿地方整備局より、新たに洪水浸水想定が公表（平成29年6月14日）され、西成区では淀川の洪水浸水想定が無くなりました。

② 大和川が氾濫した場合

浸水想定区域図

[総雨量 280 mmの降雨(石川合流点下流)(200年に一度の降雨) および
268 mmの降雨(石川合流点上流)(150年に一度の降雨) を想定]



(3) 高潮

台風などに伴う気圧降下による海面の吸い上げ効果と風による海水の吹き寄せ効果のため、海面の水位が護岸より高くなることなどにより高潮被害が発生します。

令和2年8月に大阪府が発表した「高潮浸水想定区域図」では想定し得る最大規模(※)の台風が最悪の経路で大阪府域に接近した場合、西成区も浸水が想定される区域に指定されており、高潮の被害が想定されています。

浸水想定区域図

(※)中心気圧 910hPa(室戸台風級)、最大旋衡風速半径 75km(伊勢湾台風級)、移動速度 73 km/h、

経路は室戸台風を想定

◇【参考資料①】過去に大きな潮位偏差が生じた台風

